

令和4年10月1日から令和5年3月31日までの財政の状況

(1) 財政の動向

令和4年9月末の予算現額は、前年度からの繰越額を含めると781億7,440万6千円となっており、同年12月に行われた令和4年流山市第4回定例会における原油価格・物価高騰の影響を受けている事業者を支援するための経費、白みりんミュージアムの建設に係る経費、令和5年3月に行われた令和5年流山市第1回定例会における南流山第二小学校改修工事を前倒して行う経費などを新たに計上したことにより、令和5年3月末の予算現額は、853億7,126万1千円となっている。

下期における予算現額を前年の3月末現在のものと比較すると、歳入では、国庫支出金が臨時特別給付金及びおおぐろの森小・中学校の建設に関する事業の終了などにより49億9,839万7千円の減額となった一方で、人口の増加や物流倉庫・新築家屋等の増加に伴い市税が24億1,236万8千円の増額となった。

また、歳出においては、初石駅及び公園等の施設整備に伴い、土木費が8億5,831万円増額しているものの、おおぐろの森小・中学校の建設に関する事業の終了により、教育費が46億6,342万4千円の減額となった。全体で歳入歳出は前年3月末現在と比べて55億4,925万2千円の減額となっている。

なお、一般会計と特別会計の令和5年3月末現在の執行状況は(3)収入及び支出の概況のとおりである。

(2) 市長の財政方針

本市の人口は増加を続け20万9千人を超過したところであり、その行政需要は高まり続けている。児童数・生徒数の増加に伴い喫緊の課題となっている学校の整備を進めるとともに、サポート教員の増員やインクルーシブ教育を推進し質の高い教育環境の整備に努めていく。また、人口の大幅な増加に伴い相対的に病床数の割合が減少していることから、人口規模に対応した病床数の確保に取り組む。

さて、本市は、地域資源を生かしたツーリズムの推進により「人・モノ・お金が流出する街」から「人・モノ・お金が集まる街」へと変貌した。流山本町の「白みりんミュージアム」整備に加え、江戸川台駅、初石駅及び南流山駅周辺の各地域の地域性や課題を踏まえ

た「まちの再生」を行い、さらに快適な都市環境を実現すべく取り組みを続けていく。

今後も、「緑豊かな良質な住環境」「快適な都市環境」に加え、「安心の長寿社会」「質の高い子育て・教育環境」を創出し、「住み続ける価値の高いまち」づくりを進める。また、費用対効果を念頭に置き、限られた財源を効率的・効果的に活用するとともに、事業内容及び優先順位の見直しにより市政経営の改革・改善をさらに強力で押し進め、健全財政維持に努めていく。